

沖縄平和行進2023

沖縄で痛感しました

青年部 佐久原 海

5月11日から15日、沖縄平和行進に大阪支部青年部から2名と執行部1名が参加しました。

沖縄の平和学習は、高校の修学旅行で行ったことがあったので、また同じことかと軽く考えていました。

2日目、ひめゆり資料館に行き、館長の話聞き、展示物や映像を見て、そんな軽い気持ちがなくなりました。沖縄戦は住民も巻き込む激しい戦争だったため、日本軍や住民は壕という小さな洞穴のなかで生活していたと聞き恐ろしかったです。実際に旧海軍壕に入った時は狭く蒸し暑く窮屈に感じました。戦時中は何千人もの人たちが壕にいたと聞き想像できませんでした。そして記憶に残っているのが地元の20歳以下の子供たちが「鉄血勤皇隊」や「ひめゆり学徒隊」などとして日本軍の陣地作りや弾薬運び、負傷兵の看護をさせられていたことを聞き胸が苦しくなりました。「命どう宝」の言葉の意味を感じることができ、学生の時と今では戦争に対する感じかたが全然違いました。

そして夕方から、全国の仲間や三単産の組合員との親睦会がおこなわれました。たくさんの方々と語り合い親睦を深めることができました。なにより感じたのが、全国ではこれだけ若い人や自分と年齢が変わらない人たちが頑張っているのだと驚きました。自分が壁にぶつかって辛くても全国の仲間も頑張っていると思うと、組合活動に対し前向きな気持ちになるきっかけとなりました。

最終日、大阪支部単独で辺野古新基地建設反対運動を視察に行き



ました。インターネットで反対運動の映像を何度も目にするのがありました。批判的な言葉を浴びせられ、わたしの中でもその様

青年部 大河内 孝一

沖縄平和行進に初めて参加しました。総勢80名の参加による三単産結団式が行われて、各自の決意表明と鈴木中央執行委員長からあいさつがあり、この沖縄に来て見て次世代に繋いでいく思いを改めて感じました。その後にあった勉強会では、平和ありきの労働運動をあらためて伝えていくことと沖縄の港湾情勢を聞くと負けてられない強さを感じました。12日、三単産で集合写真を撮り、ひめゆり資料館、旧海軍壕に視察行きました。「女学生が学徒隊として戦禍に巻き込まれていた」ということを考えると胸が苦しくなります。今まで映像や言葉でしか知らない戦争を写真、実物の武器等で肌身をもって感じてきました。

海軍壕での館長の貴重な話を聞かせていただき、その後に展示物を見ていたら胸が締め付けられる想いでした。二度と戦争を起こしてはいけなと感じました。

午後から全国結団式に参加し、

な考えもありました。

しかし、実際に自分の目で見て変わりました。辺野古基地はそもそも住民投票がおこなわれ、投票率50%のうち、70%が反対しています。しかし、国は民意を無視し基地建設を強行しています。

この行為は民主主義としてどうなのか、そしてこの国はどこへ向かうとしているのか、政治について深く考えさせられました。

このような政治を変えるのも我々国民であり、ひとりひとりが弱くても団結してたたかえば必ず政治は変えることができます。だから、これからも団結し、わたしたち若手がこれからを引張っていく気持ちで突き進んで行きたいと思いません。



全国からの参加者と共に明日の平和行進に向けて決意を新たにしました。午前は糸満市役所からひめゆりの塔へ行進し、昼食後はひめゆりの塔から平和記念公園までの約12キロを700名ほどの仲間と行進しました。夜からは沖縄地本でバーベキューして、「全国にはたくさんの仲間がいるんだ」とたのしく、楽しい時間を共有しました。

沖縄青年部の皆さん、準備からすべての用意ありがとうございました。全ての日程を終えて「行ってみたらわかるよ」っていういろんな方々に言われてきましたが、この熱量は沖縄に行ってみないと感じられないものだと思います。

関わっていただいた皆さま、ありがとうございました。

野球観戦、再開!

5月19日(金)、共済会主催で野球観戦の取り組みを行いました。

コロナ感染症が2類から5類になった事で共済会としても、4年ぶりの開催に踏み切る事ができました。

募集当初は、「分会からの申し込みが少ないのではないか」「チケットが抽選になり当選するのか」などの不安の声がありました。



そんな不安をかかえる中、和泉副委員長を筆頭に、共済委員に声をかけ、抽選もなく、海の子学園、全労済を招待した結果、招待を含め44名の参加になりました。

当日、共済会はサプライズとして、海の子学園の子供たちに阪神の応援グッズ等をプレゼントしました。子供たちは大喜びでプレゼントを受け取り、たくさんの「ありがとう」と「笑顔」を共済会にプレゼントしてくれました。



甲子園球場北側にて共済会の受付

そして小雨の中、阪神タイガース対広島カープ戦が行われました。試合は阪神が善戦するも負けてしまいました。共済会の取り組み

支部2023団結学校

6月11日(日)9時30分より、大阪港湾福祉第1センターにて教宣部主催の団結学校が開催され、組合員15名・執行部12名・教宣部員3名・青年部長、総勢31名の参加がありました。司会は大商分会の中山教宣部員がつとめ、開校あいさつで、団結学校長でもある小林委員長が新しい組合員に向けて組合への意識やその大切さについて話されました。

第1講義では吉訓書記長が分会の立ち上げた経緯として東大阪市営業所から北大阪営業所に転勤させられ、「労働組合とはどのようなものなのか」を知り合いから説明をうけ、4名でサンユースサービス分会の結成をしました。

企業内組合の無力さを痛感し、サンユースサービス分会は「常に仕事で楽をするのではなく、生活を

としては大成功だったと思います。これからも共済会員の皆様と共に長年続けている取り組み、また新しい取り組みなども、喜んでもらえるよう頑張っていきたいと思

います。(執行部 岡田 大)

らくにする」と目標をたて、意思統一を図ったとの説明がありました。



第2講義で、横山書記次長は分会結成に至るまでの経緯で港運同盟から全港湾へ移籍したのか、自ら立ち上げた分会の経緯などを話されました。

昼食後、新組合員の紹介があり各専門部から部会の紹介がありました。

その後、現在争議や裁判が行われている分会、日の丸西濃、梅南鋼材の報告、大和運輸分会の争議経緯報告を佐久原執行委員からありました。

國分副委員長から「現在、大阪支部の組合員430名、関西地本2000名、全国約19000名の仲間がいる事を覚えていて欲しいと、一人はみんなのために！みんなは一人のために！」と話された。最後に、陣内教宣部長が開校あいさつして団結学校は閉校しました。

(執行部 竹山 保彦)